

坂の上通信

令和二年七月二十四日
広島市立美鈴が丘高等学校
新聞文芸部(四〇三演習室)

7月31日午後 講堂発表

「ミニ文化祭」開催決定



講堂で発表する吹奏楽部(左)と演劇部(右) *写真は昨年度



発表場所	参加する部活動
講堂	演劇部(14:00~)、吹奏楽部(15:05~)
生徒棟2F	華道部・科学部・あすなる会・新聞文芸部
生徒棟3F	美術部・書道部
中央ギャラリー	書道部パフォーマンス(13:30~)

参加部活動

学校の「顔」にインタビュー



今回は保健室の野先生にお話を伺った。練習に一生懸命で、先生になろうと思ったのか？
部活動でバトントリングをしていて、縁の下を力持ちとして、生徒を支えて

いきなりと思ったからです。
先生の趣味は何ですか？
フラワーアレンジメントです。教室にも通ってます！
最後に、美高生に一言お願いします。
心も体も元気に、笑いながら学校生活を送ってください！

体育大会も検討中

ミニ文化祭に続き、体育祭改め体育大会も開催を検討中だ。例年の学年練習のように、各学年2時間ずつ実施される。例年は部活動の生徒が運営に関わるが、体育科の先生により運営される。また密を避けるため観客は招かない。3年生は民謡、1・2年生は創作ダンスに若干種目を追加し



体育祭の民謡 *昨年度

コロナの影響で中止になった文化祭が、短縮版の「ミニ文化祭」という形で開催されることになった。3年生を中心に文化系部活動の発表の場を設けたという生徒会の意見のもと、企画立案された。講堂では吹奏楽部と演劇部が発表を行い、そのほかの部は廊下などにこれまでの作品を展示する(上表参照)。
吹奏楽部は嵐メドレーやアフリカンシンフォニーなどの曲を演奏する予定。笑顔になってもらえる演奏をしたい、また楽しんで演奏している姿を見て欲しいとのことだ。
演劇部は『ターミナル』という劇を上演。現実には飽きた少年が夢の国に連れていかれ、色々な人と出会い成長していく物語だ。準備期間が2週間しかないものの、最後の劇なので全力で魂のこもった劇にしたいと意気込みを語った。
書道部は展示のほか3年生を中心に書道パフォーマンスを行う。部員が考えた言葉を見て迫力を感じて欲しいという。
そのほか、華道部は脱靴場の前で生け花の展示、あすなる会ではボランティアのレポーター展示を行い、今までの活動を振り返る。
生徒会・濱田先生の話
ミニ文化祭では外部の人を呼ぶことは出来ませんが、3年生は最後に伝えたいものを表現してください。1・2年生はそれを見て、今後の活動に力を入れて欲しいと思います。

坂の上通信 休刊か

現在、新聞文芸部員は3年生が2名のみで、1・2年生は0名である。すでに取材活動に支障が出ており、部員外の生徒などに寄稿を依頼するなど、外部の協力を受けながら活動を継続しているのが現状だ。
7月末で3年生が引退すれば、現役の部員は0名となる。平成26年以来100号を超えて発行してきた『坂の上通信』だが、今後新入部員がなければ、次号を最後に休刊となる見通しだ。
部顧問の舟橋先生は「部活動ではあります。が、学校の足跡を残す役目もあると自負していましたので、休刊は痛恨の極みです。形として残るもの、力として得るものが非常に大きい部活動です。活動時間が比較的自由で兼部も可能ですから、今後は休刊していいので、休刊は非常に残念です。新聞文芸部は活動日を自分で決めることができるので、多忙な人でも可能な部活動です。体験からでもいいので、興味のある人はぜひ入部してください。」
部長・福田さんの話
休刊は非常に残念です。新聞文芸部は活動日を自分で決めることができるので、多忙な人でも可能な部活動です。体験からでもいいので、興味のある人はぜひ入部してください。」

坂の上通信ができるまで

- 編集会議**
昼休みなどに集まって、紙面の内容や記事の分担、しめ切り日の確認をします。あとは各自の作業です。
- 取材**
担当記事の取材に行きます。しめ切り(1週間くらい)までに、各自で都合のよいときに行きます。
- 原稿作り**
指定された文字数を目安に、原稿を作ります。自宅でスマホ等で書き、メールで入稿します。
- 紙面作成**
送られてきた原稿データを、顧問の先生が新聞の形にします。印刷も先生が行っています。
- 完成!**

編集後記

坂の上通信は3人いれば発行できます。興味のある人は、担任か国語科の舟橋先生まで。

へんの不安の声も大きい。新たな感染者数は連日3桁に上り、広島県でも6月以降40人近くの感染が確認された。▼経済活動を優先した「GOTOキャンペーン」への不安の声も大きい。経済の重要性は言うまでもないが、一方で選択の余地なく辛い思いをしている児童生徒がいることも忘れないでほしい。(木村京珠)

美・鈴・鈴・鈴

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、多くの学校で行事の中止措置がとられた。部活動においては甲子園やインターハイ、各種コンクールが中止。県内に限定して代替の大会などを行うところも増えているが、やはり通常の開催は難しい。▼美高も例外ではなく、各種行事が中止となった。休業のプランクを埋めるために夏休みを短縮し、8月も授業を行う。美高では当面予定はないが、土曜日を授業に充てる学校もあるようだ。▼5月末に緊急事態宣言が解除されたが、経済活動の再開に伴って各地でクラスターが発生し、第2波への懸念の声も高まっている。新たな感染者数は連日3桁に上り、広島県でも6月以降40人近くの感染が確認された。▼経済活動を優先した「GOTOキャンペーン」への不安の声も大きい。経済の重要性は言うまでもないが、一方で選択の余地なく辛い思いをしている児童生徒がいることも忘れないでほしい。(木村京珠)